

大学から「実社会」への移行

大学卒業後の人生に備える

Cassie Franklin

ウィスコンシン大学ミルウォーキー校

2008年夏期研修会 – PEN インターナショナル

英国イーストサセックス

この講習の目的

- ・ 実社会への準備をするために必要な移行分野を調べる
- ・ 自分の感情、恐れ、目標について話し合う – 大学卒業後に直面するチャレンジについてどう感じているか
- ・ グループ議論と発表 – 実社会への準備戦略

実社会とは何か

- 職業、就職
- 大学院、継続教育
- インターン、職業訓練
- 旅行
- 結婚、家族計画
- ボランティア活動
- 海外旅行、平和部隊、留学
- 他には？

実社会での自分

アイデンティティ

教育と目標

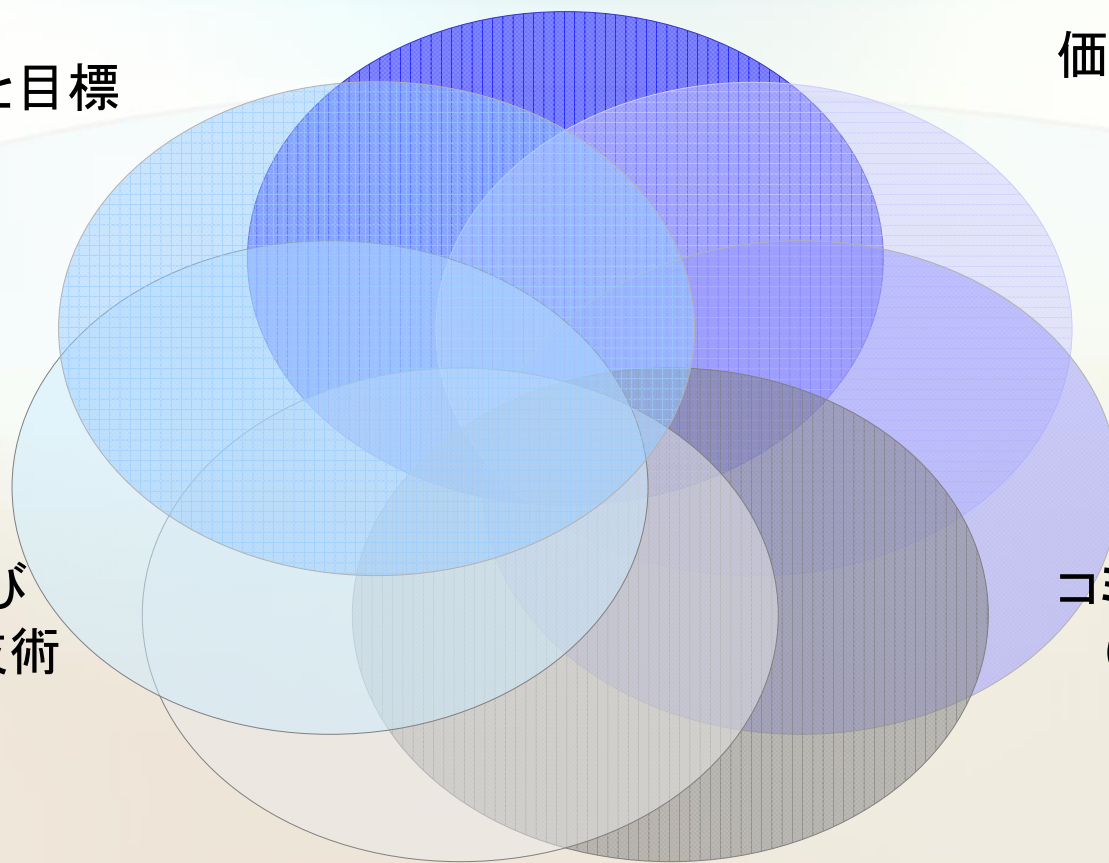
価値観

内面的および
対人関係の技術

コミュニケーション
(適切な配慮)

支援システム

権利や責任の知識



アイデンティティ

- 自分は何者か。
- 自分が適合しているのはどこか – 適合したいのはどこか。
- 自分が属すると感じるグループはどれか。
- なぜそれが重要なのか。

価値観

- 価値観がどのように目標を支持するか。どのように目標の妨げとなるか。
- 変えても良いと思う価値観は何か。
- 自分の個人的価値観はどのようなものか。職業的価値観はどのようなものか。

コミュニケーション

- 異なる人々と様々な状況でどのようにコミュニケーションするか。
- どのようにコミュニケーションするのがもっともやり易いか。どのようにするのがもっともやり難いか。
- どのような種類の配慮が必要か。

権利や責任の知識

- 適切な配慮を依頼するときの自分の責任は何か。
地域社会における自分の権利とは何か。
- 雇用主の権利と責任とは何か。

支援システム

- 自分の支援システムには誰が含まれるか。
- 自分の支援システムに含まれていないが本来含まれるべきなのは誰か。
- 自分の支援システムはどのような助けになるか。

内面的および対人関係の技術

- 自分が実社会に貢献できる技術はどのようなものか。
- 他人とどのような関係を築くか。チームで働けるか。ひとりで働く方を好むか。
- 衝突や他の人々との対立をうまく扱えるか。
- 内気か。自信はあるか。社交的か。

教育と目標

- 自分の夢は生涯の目標と合致するか。
- 自分の教育は実社会での目標と合致するか。
- 目標達成の妨げとなるのは何か。
- 教育を完了する妨げとなるのは何か。
- 大学卒業後にどのような教育が必要になると思うか。

小グループでのアクティビティ

「ソフト・スキル」を実戦し、実社会に必要と思われる教育スキルを超えて考える機会。

1. 代表団に自分たちのグループの情報を発表する人を一人か二人選ぶ。
2. グループ内で、研究会でこれまでに出了た意見を見直す。それぞれの分野において、聴覚障害のある学生が実社会への準備のために実行できるアイデアやアクティビティについてのブレインストーミングを始める。
3. 自分の学校に戻ったときに他の学生とこの情報を分かち合う様々な方法について、グループとして議論する。
4. 代表団に情報を発表する – 自分たちの情報を15分以内で発表する。

実社会を要約すると

「では、実社会に生きることとはどういうことだろう。
食べ物おいしいけれど、それ以外のことで、
私は薦めない」

- Bill Watterson、喜劇作家